

令和5年度 教育活動等に対する学校評価書

令和6年 3月27日

学校法人アイ・アイ学園 有度幼稚園 園長 垣本 範子

学校法人アイ・アイ学園 有度幼稚園 学校関係者評価委員長 花崎 年員

1 幼稚園の教育目標

丈夫で生き生きと活動する子

1. 仲良く元気に遊べる子
2. 心持の優しい思いやりのある子
3. 考えて行動できる子
4. 礼儀正しくはきはきした子
5. 工夫して新しい物を作り出そうとする子

2 本年度の重点目標（学校評価の具体的な目標や計画）

みんなで作ろう！ 僕たち私たちの新しい有度幼稚園

3 自己評価とそれに対する学校関係者評価

	評価項目	自己評価		学校関係者評価委員会	
		評価点	幼稚園としての反省と改善策	評価点	意見
1	保育の計画性	B	幼児部 ・学年で子どもの実態に合わせ活動計画をし、目標に向けて事前準備にも取り組んだ ・満3歳児クラスとして環境の安全面、清潔面にはとても配慮してきたが、発達に即した環境構成に対し課題が残った ・2人担任となり、より多様な視点で子どもを見ていくことができた ・新しい園舎になり環境を見直すきっかけができた ・毎日の振り返りを大切に行い、その日の課題について情報交換をして原因を考えることができた 乳児部 ・1人1人の発達やクラスの実態に合った計画を立てることができた ・保育士同士の意見交換や情報交換ができた ・限られた環境の中でも先生達でアイデアを出し合い、遊びの環境を作り出すことを楽しめている 改善策 ・2歳児保育についての研修として、連携園との交流を行う ・「子どもの育ちを支える環境作り」をテーマに研究する中で、子どもが主体的に遊べる環境について探る	B	◎先生方が一生懸命取り組んだことが良く分かった。 ◎園舎建て替えて園庭が狭くなり遊びの遊べない時期があり、もう少し園外保育などを増やすなど、工夫してほしいという要望があった。 ・1年を通し、その他の行事も進めるためには時間に限りがありご希望に添えないところがあったと反省する。 ◎2人の担任がいつもクラスにいてくれると良いのではないかと。 ・日案を立て、必要な時間は必ず2人で進めてきている。また、2人担任制は先生方の働き方改革にも対応し、先生方が笑顔で元気に子ども達との保育に当たれるようにと考えている。行事のための準備にも手が回り、そのことでより充実していると 考えている。それを保護者の方々に丁寧にご説明する必要がある。

2	保育のあり方 幼児への対応	B 幼児部 ・安全面、健康面での配慮に努力した ・2人担任は、気持ちと情報を共有し同じ方向を定めて保育をすることが大切と感じ努力した ・保育教諭として更に子どもの遊びを捉える目を養いたいと感じる ・子ども1人1人の細かい発達まで捉えられたか、大人しく口数の少ない子どもの困り感に気付いていたか課題が残る ・トラブルの前後に何があったのかを丁寧に捉えられたか、課題が残る ・個表を丁寧に書き留めてきた 乳児部 ・言葉にできない乳児だからこそ表情を気にかけてたり、ちょっとしたグズグズにも丁寧ににかかわりたい ・先生の表情が大切と感じた。もっと子どもと遊ぶようにしたい 改善策 ・研修テーマに沿って、子どもの遊びを捉える目を養う研究をする ・2人担任の情報共有のための時間を確保する	A ◎多様な価値観の中で、すべての子どもの発達に即した保育を100%で提供するのは、困難だとわかる。先生方は頑張っていると思う。 ◎先生方によって、言葉のかけ方などに差がある。子どもには肯定的な言葉をかけてくれると嬉しい。 ◎クラス便りも、これだけ出すとなると時間と労力が求められると思うが、効果はあるのか。 ・クラス便りを書く事で自分の保育を振り返り、良かった点や課題を見つける事にもつながっている。インスタグラムなどは、子どものプライバシー保護の観点で、取り入れている。保護者のニーズはどうか。 ◎保護者の一人として、インスタグラムなどのSNSを発信する事にはやはり賛成できない。 ◎情報を収集する必要があると考える。
3	教師としての 資質、能力、良識、 適正	A 全体意見と改善策 ・保育教諭として2号児に対する養護についてもっと勉強したい ・保育の難しさも感じるが、楽しさや喜びもたくさん感じた。今後は保育以外の分野にも興味をもって関わり、理解を深めて豊かな人間になりたい ・得意分野、不得意分野に偏りがある。教材研究と情報交換をして幅を広げたい ・仕事には責任をもって取り組むことを心がけた ・仕事を効率よく進められないことが課題 ・自分の事だけでなく、チームで仕事をするという意識を持ちたい ・会議でなかなか自分の意見を発言できないが、今後はもっと積極的に参加する ・子どもがどうしたいのか、聞き役になる事が出来るようになった ・子ども達といる楽しさ、面白さ、成長に感動。日々子どもから学ぶことが多い ・教育、保育、子育て、の3つをどう捉えていくのか社会の情報にアンテナを高く持つ ・職員間のコミュニケーション大切にする	B ◎先生によっては、挨拶をしてくれない人もいる。 ・子どもと話していたり、考え事をしている保護者の方に気付かないこともあるとは思いますが、気を付けるようにしていきたい。

4	保護者への対応	A	幼児部 ・笑顔で挨拶をしたり、何気ない会話を心がけた ・面接を通して、普段聞けない家庭での子どもの様子が聞けたり、保護者の相談事も聞くことができ、その後の保育に活かした ・電話での保護者との話し方、連絡帳の書き方を学ぶ必要があると感じた ・バス通園の保護者とあまり話ができないのが課題（複数意見） ・クラス便りは活動ごとに写真を入れ、より分かりやすくなるよう努力した（複数意見） ・機会を積極的に捉えて、保護者と話をするようにした（複数意見） ・気になる事は、なるべくすぐに（電話など）伝えるよう努力した ・他の先生が描いたクラス便りを見合い勉強したい（複数意見） ・わからないことは、そのままにしないことが大切と感じる 乳児部 ・共働きで忙しい保護者が多いため、顔を合わせた時はもちろんだが、毎日の連絡帳を丁寧に書き伝えるようにしている ・保護者に対して笑顔で接し、子どもの良い所をたくさん伝えたい ・厳重な守秘義務を前提として、情報交換と共通理解が大切 改善策 ・お互いのクラス便りを研究材料として、更にクラス便りの充実を図る ・ミーティングを通し、情報共有を図る ・怪我や体調不良児に対する保護者連絡を徹底する	B	◎園舎の建て替えやこども園に移行したことで、説明が不十分と捉えられることがあった。 ◎こども園に移行することと給食を委託事業に変更する事が同時になり、委託事業にすることの説明が不十分に感じた。 ・もっと丁寧な説明に努力すべきだったと反省する。 ◎HP を充実して、保護者への情報提供をしてもらえたら嬉しい。 ◎クラス便りは、読むのが楽しみのになった。
5	地域の自然や社会とのかわり	B	・幼小接続の架け橋プログラムに対する理解が足りないと感じる ・自然保育活動に対する理解を更に深めたい ・園門に立つ時など、地域の方に対しもっと積極的に挨拶をしていく ・自分から情報を集める努力などではできていない（多数意見） ・子どもが、地域の方に対し自然に挨拶ができるようになってほしいため、自分自身が実践していくことが大切と感じる ・地震などの災害も増え、より一層地域の方との連携が大切と考える 改善策 ・幼小接続の架け橋プログラムの研修に参加する ・7月、12月に近隣小学校教諭に向けた公開保育の実施し連携を図る	A	◎同じ自治会の者として、園の前を歩いていると先生方が元気よく挨拶をしてくれる。とても明るい雰囲気があり嬉しいと感じる。 ◎駐車場の整理に雨の日でも出ているなど、近隣対策に努力していると感じる。

6	研修と研究	B	・最近の多様性に満ちた発達障害児の理解を深めていきたいと感じる ・今年度は園内研究を通して、子どもの現状の姿を捉えた保育の計画の大切さについて学べた ・園内研究を通し、他の先生が環境構成で大切にしていることや、子どもの育ちの読み取り、そこから指導計画にどう生かすかが学べてとても勉強になった ・園内研究で、子どもの主体性について考えることができた。先生がどうしたいかではなく、今子どもがどうしたいかを見つけ、力を引き出していけるように関わりたい ・研修で学んだことが、継続できないことが自分の課題だと感じた ・打ち合わせやミーティングで積極的に発言できるようにしたい ・教材研究、時代に合った保育を考えるための学びが必要 ・サポートプランを作成したカンファレンス形式の園内研修を増やしたい 改善策 ・研修に参加できる先生が限られてしまうため、研修資料をまとめて配布するなどフィードバックを徹底していく	A	◎どのような研修をしているのか保護者にもわかると良いのではないかな。 ◎保育以外の研修にも取り組むとよい。 ◎研修は、時代に合ったものを負担にならない程度に取り入れてほしい。
7	外部アンケート	B	◎困ったことを先生に伝えられない子もいるという結果を受けて ・個人的な信頼関係を築いてあげられない子もいたのではないかな ・口数の少ない大人しい子どもの思いに気付いてあげられなかったと感じるため日々の保育計画を見直したい ・クラスに、安心できる時間、場所を作りたい ・子どもの小さな変化に気付けるよう努力する ・視野を広げる努力をする ◎職員間での情報共有・共通理解が足りないという指摘について ・言葉を多くして些細なことでも伝える努力をする ・保護者の相談相手になれるよう、送り迎えなどの時間を使いコミュニケーションをとる ・園だよりを更に工夫する ・日頃の挨拶をしっかりとる ・参観会・面接の時間を工夫する	B	◎防犯や不適切保育に対応したカメラなどはあるか。 ・カメラは、教室内や廊下、屋上、園門などに設置されている。 ◎ヒヤリハットは記録しているか。 ・毎日のミーティングで記録し、全職員で情報共有している。 ◎給食が自園調理なので、楽しい食育のメニューや活動を取り入れていくと良い。 ・是非奨めていきたい。

*結果の表示方法 A 十分達成されている

B 達成されている

C 取り組まれているが、成果が十分でない

D 取り組みが不十分である。

4 本年度の重点目標の総合的な評価結果

重点目標 「みんなで、新しい有度幼稚園を作ろう」

- ・仮設園舎・新園舎と環境が変化する生活の中、リスクマネジメントの研修を生かし、子どもの生活導線を考え安全・衛生面の管理・災害時の避難誘導等について常に、見直すよう取り組んだ
- ・園庭が縮小された期間は、あいあいの森や近隣の公園等を利用させて頂き、子どもの遊びと運動面での発達の遅れが出ないよう計画を立てて実施できた
- ・新しい環境に合わせてポジション・コーナー遊びの環境を見直し、年間計画と月案をもとに、概ね計画的に保育を進めてきたが、教育課程における目標やねらいを十分反映できていたかという点で、少し課題が残った
- ・今年度はテーマが曖昧過ぎて、子どもと共に園を作るという取り組みが、具体的な結果と結びつかなかった

5 今後取り組むべき課題

課題と具体的な取り組み方法

- ・園内研修を市内研修と並行し、「子どもの育ちを支える環境作り」をテーマに、子どもが主体的に遊べる環境について探っていく。
- ・園内では、エピソード記録を通して遊びから育つ力を見つける研究に取り組む
- ・教員研修は、その都度参加できる人数に限りがあるため、参加者が研修の記録をまとめ資料と共に全員に配布する事、定期的に報告会を開くなどしてフィードバックに努め、皆が研修した実感を持てるようにする。又、全日のオンライン研修を積極的に活用する
- ・クラスだよりで保護者に保育の思いをしっかりと伝え、活動を通して子どもの育ちを実感してもらえるような内容の充実に努める
- ・保育以外の研修を取り入れる（・防犯 5月 ・防災3月、8月 ・保護者対応 8月 予定）

6 学校評価委員より総合的コメント

- ・保護者のニーズは多様化しているが、先生方の負担にならないように応えていくと良いのではないかな。
- ・保護者にとって子どもは宝物、その気持ちを忘れずにこれからも日々の保育に当たっていただきたい。